

# 震災復興支援住宅へ入居

避難勧告継続の2世帯、山谷分館避難所から

市は岩手・宮城内陸地震により避難勧告を受け、厳美公民館山谷分館で避難所生活を送っている2世帯11人について、震災復興支援住宅を建設し、2月21日、鍵の引き渡しを行いました。  
本寺小学校Ⅱ厳美町岡山Ⅱの敷地内に建設した同住宅は、軽量鉄骨造り平屋建て2棟で、延べ床面積はそれぞれ47・04平方メートル(3DK)、71・34平方メートル(4DK)。空調設備を備えたほか、断熱材や二重サッシを使用し、気象条件などにも配慮した造りと

なっています。市は、今後の支援方法などについて話し合いを行った結果、自宅より近く、通学などの問題も解決する同地内へ復興支援住宅を建設することとし、1月中旬から工事を進めていたものです。  
避難世帯の自宅付近では、現在関係機関により治山工事が懸命に進められています。市は、関係機関と連携し、一日も早い避難勧告の解除に向けて今後も努めていくこととしていますが、解除までには長期を要する見込

みとなつていくことから、2世帯にはそれまでの期間、同住宅を無料で使用してもらうこととしています。  
同住宅の使用開始に伴い市は同日、山谷分館の避難所を閉鎖しました。昨年6月14日の地震発生以来延べ253日間におわたり設置していた避難所はすべて閉鎖となりました。



浅井市長(右から3人目)に受賞報告した大森雄団長(右端)ほか市消防団関係者の皆さん

## 市消防団 地震対応に栄誉 消防庁長官表彰

一関市消防団(大森雄団長、団員2524人)は、岩手・

宮城内陸地震での住民の誘導や警戒、広報活動などの功勞により、2月25日に東京で行われた全国消防団等地域活動表彰式で防災功勞者消防庁長官表彰を受賞しました。  
2月26日、関係者が市役所本庁を訪れ、浅井市長に受賞を報告。大森団長は「市民の皆さんと連携しながら今後も励んでいきたい」と受賞の喜びを語りました。浅井市長は「自分たちの地域を自分たちで守るという意味で、消防団活動はまさにお手本。今後もよろしくお願ひしたい」と祝福しました。



2月21日、市職員も手伝い住宅への引っ越しが行われました

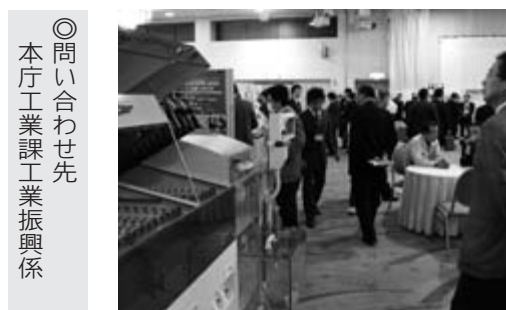
## 企業情報 交換会

# 55社出展、積極的に交流

第3回企業情報交換会「いわて・みやぎ 技術・情報交流フェア2009」(勲岩手県南技術研究所センターなど主催)は2月18日、ダイヤモンドパレスで催され、約800人が参加しました。  
展示や商談形式による技術・情報交流を通じて地域内企業の活性化を図ろうと平成19年か

ら行われている同交換会には、岩手・宮城両県などから合わせて55の企業が出展。各ブースでは、企業が自社の製品や技術について、製品展示やパネル、パソコンディスプレイなどにより工夫を凝らして紹介し、積極的な情報交換が行われていました。同交換会では、矢嶋英敏(株島

津製作所代表取締役会長)による特別講演も行われました。矢嶋会長は、同社の事業再建の経験を「失敗を責めるより成功をみんんで喜び、加点主義で行った」と語り、「景気対策として、相続税などに思い切った政策が必要ではないか」と提言。参加者らは熱心に聴き入っていました。



岩手・宮城両県などの55企業が出展して行われた企業情報交換会

◎問い合わせ先  
本庁工業課工業振興係

# 羽ばたけ! 「全国」の大舞台へ

## ミニバスケット 一関ミニバススポ少

一関ミニバスケットボールスポーツ少年団(佐々木将年監督、団員34人)の男子チームは、1月10~12の3日間宮古市で行われた第32回岩手県ミニバスケットボール交歓大会で優勝し、3月28日から東京の国立代々木競技場第一、第二体育館で行われる第40回全国ミニバスケットボール大会への切符を勝ち取りました。



浅井市長に全国大会出場を報告し健闘を誓った杉内キャプテン(右)

同団は一関小児童で構成され、大会出場メンバーは4~6年の15人。県大会では各地区を勝ち抜いたチームを相手に初戦から順調に勝ち進み、決勝では盛岡仁王スポ少を48-25の大差で下して優勝しました。

2月23日、同団体のメンバー、関係者が市役所本庁に浅井市長を訪れ、全国大会出場を報告しました。

杉内瑛キャプテン(6年)は「県大会では準々決勝が苦しかった。全国大会では今までどおりのプレーをしたい。優勝を狙って頑張ってきます」と力強く健闘を誓いました。浅井市長は「本当におめでとう。全国大会では大きな選手も多いと思いますが、負けずに頑張ってください」と激励しました。

## 硬式野球 一関リトルシニア



全国大会での活躍を誓い浅井市長と握手を交わす選手たち。右は千葉監督

硬式野球チームの一関リトルシニア(千葉博美監督、団員15人)は、昨年10月に奥州市ほかで行われた県大会での優勝などから、(財)全日本リトル野球東北連盟の推薦を受け、3月27日から大阪の京セラドームほかで行われ

る第15回日本リトルシニア全国選抜野球大会への初出場を決めました。

同チームは岩手県南・宮城県北の小学6年~中学3年の児童生徒で構成し、普段は市内で練習を重ねています。2月26日、同チームの大谷祥平キャプテン(水沢南中2年)、伊藤竜一副キャプテン(中田中同)、選手の高橋光君、木村隼君(いずれも一関中同)と千葉監督らが市役所本庁に浅井市長を訪れ、全国大会出場を報告しました。

浅井市長は「全国大会出場は本当に素晴らしいこと。今までの練習や試合の成果を存分に発揮して頑張ってください。健闘を期待します」と激励。大谷キャプテンは「3月下旬の全国大会に向けて練習を重ね、大会ではベストコンディションで頑張りたい。優勝を目指します」と力強く応えていました。

## 合唱 アンサンブル 桜町中、市民合唱団

桜町中特設合唱部と一関市民合唱団は2月1日、盛岡市で行われた第18回岩手県合唱小アンサンブルコンテストで金賞を受賞し、3月20日から福島市音楽堂で行われる第2回声楽アンサンブルコンテスト全国大会へ、いずれも2年連続で推薦されました。



2年連続出場を浅井市長(左から3人目)に報告した桜町中、市民合唱団の皆さん

16人以下での合唱を競う県コンテストには、中学校の部に53団体、高等学校の部に46団体、一般の部に11団体が出場。中学校の部で桜町中から出場した4団体のうちの1団体、一般の部で一関市民合唱団メンバー有志による1団体がそれぞれ第1位を獲得しました。

2月26日、両団体のメンバー、関係者が市役所本庁に浅井市長を訪れ、全国大会出場を報告しました。

桜町中特設合唱部の加藤実希部長(2年)は「県大会より高いレベルを目指して努力し、他の学校に負けない演奏ができるよう頑張りたい」、同部テノールパートリーダーの神山洸樹君(同)は「全国大会では自分たちの力を精いっぱい出し、いい演奏をしたい」と決意を述べ、市民合唱団の尾形洋団長は「おかげさまで2年続けての出場となった。今回は昨年以上の成績を目指したい」と抱負を語りました。

浅井市長は「一関市が『合唱のまち』と言われるのも皆さんの頑張りのおかげ。全国大会では実力を発揮して、市の名をますます高めてきてください」と激励しました。

## 囲碁 「ヒカルの碁」木村君



全国大会出場を決めた木村君(右)と県大会第3位に輝いた佐藤君(中央)

日本棋院一関支部が開催している子ども碁教室「ヒカルの碁スクール」に所属する木村和紀君(南小5年)は、1月12日に盛岡市で行われた第5回岩手県少年少女碁大会小学生の部で優勝し、8月に東京で行われる

全国大会への出場を決めました。木村君は幼稚園時代から同スクールへ入校。週5日通うなどして腕を磨き、現在同支部6段の腕前を誇ります。

2月5日、木村君と昨年全国大会に出場し今年の県大会では第3位を獲得した佐藤祐杜君(赤荻小5年)、同支部関係者が市役所本庁に浅井市長を訪れ、県大会入賞を報告。木村君は「全国大会でも一生懸命頑張ります」、佐藤君は「7月にある県大会で全国大会を目指します」とそれぞれ語り、浅井市長の祝福を受けました。